

今、福祉用具専門相談員に求められる役割とは

6月17日に東京国際フォーラムで「第一回福祉用具専門相談員研究大会」が開催される。福祉用具専門相談員の全国規模での研究大会開催はこれが初となる。大会テーマは「伝えよう！福祉用具のちがいを！地域包括ケアシステムにおける福祉用具の役割」。この研究大会開催にあたり、共催の全国福祉

用具専門相談員協会・岩元文雄理事長、日本福祉用具供給協会・小野木孝二理事長、そして4月に着任した厚生労働省・長倉寿子福祉用具・住宅改修指導官に、求められる福祉用具専門相談員の役割について語っていただいた。

他職種連携は学びの場

全国福祉用具専門相談員協会

岩元 文雄 理事長



(いわもと・ふみお)氏
1988年、青山学院大学卒業。サラリーマン生活を経て、92年にカクイわた基準寝具（現・カクイックス）に入社。2003年、福祉用具部門を分社独立し、カクイックスウィングを設立。05年より同社代表取締役社長。13年に全国福祉用具専門相談員協会理事長に就任。日本福祉用具供給協会副理事長なども務める。

岩元 この度、初めて福祉用具専門相談員による研究大会を開催できるとなりました。現場の福祉用具専門相談員が一堂に会し、職能を高めたいという取り組みを互いに発表しあい、それをまた次の研究テーマに。これまでも地域や事業者のそれぞれが取り組みとして事例を発表・検討する場はありましたが、全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会との全国規模での研究大会を開く意義は非常に大きいと思います。介護保険制度が始まって20年を迎えようとしています。それとともに福祉用具専門相談員の職能が向上していることは間違いないと思います。ただ、直近の制度の見直しを振り返っても、「これまで以上に福祉用具専門相談員としての専門性を向上しなければならぬ」というメッセージが込められています。福祉用具専門相談員の資質向上の取り組みを内外に訴えるためにも、この研究大会をぜひとも成功させたいと思

い、準備を進めているところです。
小野木 福祉用具専門相談員の好事例などを共有することで、福祉用具サービス全体のレベルアップに繋がります。第一回大会の発表を見た参加者には「次回は自分も事例を発表したい」と思ってもらい、第二回は回と回と盛り上がり上がってほしいと思います。
長倉 そうですね。福祉用具専門相談員としての悩みなどがそういった部分を共有していただくと、とても大切だと思います。現場はなかなか言えない苦労もそれぞれにきくと抱えているのだと思います。同じ職能としてそういった面を共有することも非常に重要なことではないでしょうか。
現職に就く前は地域ケア会議に参加していましたが、福祉用具の重要性を改めて実感する一方で、他職種のなかには福祉用具だけでなく、住環境への意識が薄い方もいるなどというのが率直な印象です。この研究大

会が福祉用具専門相談員からの発信の場となり、多職種連携をさらに深める機会となるよう期待を寄せています。
私の経験からいえば、駆け出しのころ、他職種の方から本当にたくさんのご意見を教わりました。それぞれの専門性からの視点、違う見方があるのだというのを学び、お互いに尊敬しつつ、連携を深めてきました。
小野木 我々も福祉用具のご専門家、例えばリハビリテーションであったり、褥瘡であったり、そうした知識を他職種の方から学んでいかなければならぬと感じています。「この方の状態であればこの福祉用具」と把握を持って説明できる、そんな福祉用具専門相談員を養成していくかなければなりません。
長倉 多職種との連携ではサービス計画書がとても重要になっていると思います。作成の負担も減らしていくのが、充実した計画書を出す上で、他職種からの信頼も高まっていくはず。実際の福祉用具サービス計画書をおみやえ、またその製品の説明にいらまつくものもあつてます。そして、なせこの方にはこの福祉用具なのかというマッチングの部分も明確になるように記載していただくといいと思います。
小野木 同感です。適切なサービス計画書を作り上げる能力を身に付けることが連携の第一歩ではないでしょうか。こうした職能を高めていくには、経験に勝るものはないのでしょつが、それだけだと非常に時間がかかってしまいます。研究大会で、現場の知恵やアイデアを共有すること、福祉用具専門相談員全体のレベルアップに繋がります。非常に意義深いと思います。